



平成28年1月6日

各 位

会社名 Oak キャピタル株式会社
代表者名 代表取締役会長兼CEO 竹井 博康
(コード番号3113 東証第二部)
問合せ先 IR・PR室長 小玉 誠一
(TEL. 03-5412-7700)

モジュール株式会社(東証JQG 3043)に向けた成長支援投資のお知らせ

当社はこの度、モジュール株式会社(以下「モジュール」)の成長支援を目的とした3億円のエクイティファイナンスの引受を決定いたしましたので、その概要に関し下記の通りお知らせいたします。

記

1. 「NO1. ITサービス・コンシェルジュを目指す」戦略に向けた成長支援投資

モジュール社はIT分野における高い専門性を持ち、大企業の情報システム構築などのITソリューションサービスを提供しております。特にIT環境におけるシステム業務(システム構築・製品調達から維持・運用や管理、トラブル対応など「ITライフサイクル」業務)を担うことにより、顧客企業のIT環境を最大限高めることが出来る強みを持っております。

同社は、平成27年3月期まで5期連続で増収増益を継続しており、平成28年5月期業績予想は効率性の向上により引続き増益と、中長期的な事業成長と企業価値の向上を堅実に推進してまいりました。

同社の事業であるITソリューションサービスの市場は年々拡大しておりますが、今後、同社が事業規模を拡大していくため、顧客を従来の大企業から中堅企業向けまで拡大し、あらゆる企業のニーズに対応出来る「NO1. ITサービス・コンシェルジュ」を目指し、情報セキュリティをはじめ独自の優位性を持った付加価値サービスの提供を通じ、顧客企業のIT環境を構築していくことが事業戦略の骨子となっております。また、この度のエクイティファイナンス資金を活用して、M&Aや業務提携も積極的に展開する方針です。

▶ モジュール社の主な顧客企業等

明治・東武百貨店・三菱鉛筆・エレマテック・小泉・カルピス・ハウスコム・東芝電力システム社・
セコムトラストシステムズ・いすゞシステムサービス・ノルウェー王国大使館

本投資を決定した理由

当社のエクイティファイナンスの引受が、モジュール社が推進する事業戦略や成長戦略として計画するM&A等の投資資金として活かされると判断いたしました。また、同社は平成23年より5期連続の増収増益を継続しておりますが、今後、企業のIT環境はさらに拡大すると予想されることから、同社の潜在成長率は高まると予測し、成長戦略を支援することを決定いたしました。

2. モジュールへの投資総額の内訳

新株の引受	1億円
新株予約権の引受	2億円
合 計	3億円

3. 投資後の出資比率

投資後の当社出資比率は19.08%であります。

4. 投資実行の予定日

払込期日：平成28年1月22日

5. モジュール会社概要 (平成27年9月30日現在)

- (1) 商号：モジュール株式会社 (東証JQ 3043)
- (2) 代表者：代表取締役 松村 明
- (3) 所在地：東京都港区芝5丁目25番1号 ヒューリック三田ビル
- (4) 設立：平成12年(2000年)4月
- (5) 決算期：5月
- (6) 従業員数：65名
- (7) 資本金：2億54百万円
- (8) 発行済株式総数：1,370,000株
- (9) 株主構成：松村明 33.09%、自己株式 7.12%、松井証券株式会社 5.14% 他
- (10) URL：<http://www.modulat.com/>
- (11) 事業内容：企業向けPC及びサーバーの保守サービス、維持管理サービス、障害対応サービス、システム構築サービス等の技術的サービス・IT関連製品(ハードウェアやパッケージソフトウェア)の販売

6. 投資銀行としての役割

(1) 新興市場の上場企業に向けた成長支援

当社は新興市場に上場する企業並びに中堅上場企業向けのエクイティファイナンス引受けを通して、企業の成長を支援することを使命としております。当社の引受け対象となる時価総額100億円未満の上場企業は、公募による資金調達が容易に出来ず、第三者割当増資の手法で資金調達をしております。こうしたことから当社の投資銀行業務の役割は重要であると考えております。

(2) 公正な資金調達の担い手として

当社はファイナンスの引受けに際し、金融庁や証券取引所の定める厳正かつ公正なルールに従い実施すると共に、株式市場に対しては、透明性を重視し、投資家の不利益にならない条件で引受けを実施しております。

(3) 新興市場の上場企業に向けた事業再生支援

新興市場に上場する企業や中小型株企業の中には、長引く景気の低迷で事業再生に直面している企業も少なくありません。当社が引受けするエクイティファイナンスによって、財務体質の強化や事業再生に繋がる資金を提供することが投資銀行の役割と考えております。今後も、引き続き企業再生の後押しをおこなう方針です。

(4) 投資の成果と評価

これまで上場企業向けエクイティファイナンス投資をおこない、一定の成果を上げてまいりました。しかし、投資のパフォーマンスを高めるだけが重要な事ではなく、何よりも優先されることは、エクイティファイナンスが成長資金として活かされ、成長戦略や事業戦略が軌道に乗ることです。

7. Oakキャピタルの経営方針 —投資分野の多角化に向けて—

当社は、変動する金融市場に於いても、成長し続ける投資銀行を目指すと共に、企業価値を向上させることが株主へのコミットであると認識しております。

当社の投資銀行業務は、これまで上場企業向けエクイティファイナンス投資を重点におこなってまいりましたが、今後、当社は多角的な投資分野を展開し、安定した経営基盤を構築してまいります。従来の株式投資によるキャピタルゲイン収益に加え、ブランド投資、新たに開始した事業投資(リゾート投資など投資対象の多角化)からの事業収益により、当社の成長力、収益力、安定力をより強固にすることで当社の株主価値を高めていく方針です。

以 上